



2018年12月12日

各位

会社名 株式会社シャノン  
 代表者名 代表取締役社長 中村 健一郎  
 (コード: 3976 東証マザーズ)  
 問合せ先 取締役 経営管理担当 友清 学  
 (TEL. 03-6743-1551)

**2018年10月期通期連結累計期間の業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ**

2017年12月12日に公表いたしました2018年10月期連結累計期間(2017年11月1日~2018年10月31日)の業績予想値と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

1. 2018年10月期の連結業績予想と実績の差異  
 (2017年11月1日~2018年10月31日)

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益又は 営業損失(△)	経常利益又は 経常損失(△)	親会社株主に帰属 する当期純利益又は 当期純損失(△)	1株当たり 当期純損失(△)
前回発表予想(A)	1,934	9	6	0	円 銭 0.54
実績値(B)	1,803	△31	△30	△31	円 銭 △22.61
増減額(B-A)	△131	△40	△36	△32	—
増減率(%)	△6.8	—	—	—	—
(参考) 前期実績 (2017年10月期)	1,586	△48	△62	△326	△244.04

### 3. 2018年10月期の連結業績予想値と実績値の差異理由

#### ① 売上高の差異について

##### (1) マーケティングオートメーション

(プロフェッショナルサービス)

受注獲得までのリードタイムが長期化する傾向にある大規模案件において、その受注時期が想定以上に後ろ倒しとなり、納品も翌期以降となってしまった案件が複数発生したこと（主にプロフェッショナルサービス売上に影響）や、採用進捗の遅れの影響等により前回予想に対して未達となりました。

その結果、プロフェッショナルサービス売上は、前回予想に対して153百万円減少し、464百万円（前年同期比3.2%減）となりました。

(サブスクリプション)

上記のプロフェッショナルサービス売上の減少に起因して、サブスクリプション売上にも新規獲得の不足や遅れが発生いたしました。

その結果、サブスクリプション売上は、前回予想に対して69百万円減少し、708百万円（前年同期比12.6%増）となりました。

なお、期末アカウント数は、375アカウント（前期末比11.3%増）となりました。

##### (2) イベントマーケティング

イベントマーケティングサービスについては、前連結会計年度のリピーター案件、新規案件ともに順調に推移しました。また、前連結会計年度の途中から発生しているイベントプロデュースに関連する案件の売上高も順調に推移しました。

その結果、イベントマーケティングサービスの売上高は、前回予想に対して91百万円の上振れとなり、630百万円（前年同期比32.0%増）となりました。

以上の結果、売上高は、前回予想よりも131百万円減少し、1,803百万円（前年同期比13.6%増）となりました。

#### ② 営業利益の差異について

(売上原価)

マーケティングオートメーションサービスに関する売上原価は、前回予想に対して売上高が未達となったことが減少要因となりました。一方で、想定よりも仕入率が高い案件の発生もあり、原価率自体は若干上昇する結果となりました。

また、イベントマーケティングサービスに関する売上原価は、イベントプロデュースに関連するサービスの売上に関連する原価率が従来型のイベントマーケティングサービスに比して高く、その売上が好調であったため、増加することとなりました。

以上の結果、売上原価は、前回予想よりも3百万円増加し、800百万円（前年同期比11.6%増）となりました。

(販売費及び一般管理費)

採用進捗遅れに伴い人件費や採用費の計上が想定よりも低くなったこと、採用や受注の進捗に連動させている広告宣伝費の調整や支払手数料を想定よりも削減できたこと等により、前回予想に対して減少しました。これらにより、販売費及び一般管理費は、前回予想の1,127百万円に対して94百万円減少し、1,033百万円（前年同期比12.6%増）となりました。

以上の結果、営業利益は、前回予想よりも40百万円減少し、31百万円の営業損失（前年同期の営業損失48百万円）となりました。

③ 経常利益の差異について

経常利益については、営業利益の差異の影響のほか、前回予想に織り込んでいなかった助成金収入の計上の影響もあり、前回予想の6百万円対して36百万円減少し、30百万円の経常損失（前年同期の経常損失62百万円）となりました。

④ 親会社株主に帰属する当期純利益の差異について

経常利益の減少により、前回予想の0百万円の当期純利益に対して、32百万円減少し、31百万円の当期純損失（前年同期の当期純損失326百万円）となりました。

以 上